

在来マス類種苗生産試験

(アマゴ種苗生産配布事業)

松岡 正義・尾田 文治・船越 進

平成2年10月に採卵し、繰り越した稚魚を継続飼育し、春稚魚(平均体重4.3g)として4月現在85,000尾を生産した。この内、平成3年5月に河川放流用として45,000尾、養殖用種苗として27,000尾の計72,000尾を有償配布した。

採卵用親魚は、平成2年10月に採卵し、親魚候補として継続飼育し、平成3年2月、3月にはせつそう病ワクチンの防疫処理を施して10月まで養成した。採卵時における親魚の平均体重が371.9gであった。

採卵には、雌魚1,327尾を使用し1,184,000粒(1尾平均892粒)の卵を得て発眼卵968,000粒(発眼率82%)を生産した。このうち村営養魚場および民間養殖業者に計800,000粒を有償配布した。(表1)

小歩危淡水養魚場における飼育水は、現在2水系の水が使用され、このうち1号水系は、谷間の表流水を集めて使用し平成3年4月～平成4年3月における水温は8.4～17.7の間で変動した。2号水系は、小河川の表流水を取水し、水温は3.3～22.3の間で推移した。水系としては例年同様1号水の方が水温変動も少なく水量的にも安定していた。

表1 平成3年度アマゴ採卵状況

採卵用親魚(雌)	1,327尾
〃(雄)	490尾
採卵数	1,184,000粒
1尾当たり採卵数	892粒
発眼卵数	968,000粒
発眼率	81.7%
養殖用種卵(売却)	800,000粒
試験用発眼卵	12,000粒
春稚魚用発眼卵	134,000粒
〃浮上魚数	110,000粒
浮上率	82.0%